様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月　 ６ 日現在

機関番号：２６２０１
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2011～2013
課題番号：２３５９３３９７

研究課題名（和文）戸建て団地における孤立死予防型コミュニティづくりの波及モデルの構築に関する研究

研究課題名（英文）Study on construction of estates detached storey solitary death proactive community impact model

研究代表者
合田　加代子（GOUDA, KAYOKO）

香川県立保健医療大学・保健医療学部・准教授

研究者番号：２０３５３１４６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　3,900,000円、（間接経費）　1,170,000円

研究成果の概要（和文）：モデル団地を対象に住民・大学・行政の協働を基軸にしたCBPRによる実践研究によって、戸建て団地における「住民主体の孤立予防型コミュニティづくりモデル」を構築した。
モデルの波及は、市民、住民組織、地域の有識者、看護職等を対象に、「団地サミット」、「ネットワーク会議」、「すこやかコミュニティを考える会」、「出前講座」、「住民組織の実態調査」、「住民主体のコミュニティづくりを考える場の設定」などに取り組んだ。その結果、行政の果たす役割の重要性とコミュニティづくりの波及推進力は行政保健師にあることが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：A door was built by a practice study by CBPR with collaboration of inhabitants, a university, the administration as a key among a model housing complex and built "the making of inhabitants-centered isolation prevention type community model" in the housing complex.
The influence of the model wrestled for "a housing complex summit", "a network meeting", "the meeting which thought about healthy community", "a home delivery of cooked foods lecture", "the fact-finding of the inhabitants organization", "the setting of the place that thought about the making of inhabitants-centered community" for a citizen, inhabitants tissue, a local well-informed person, nursing jobs. As a result, it became clear that the administrative community health nurse had the importance of the administrative role to achieve and the influence driving force made with community.

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・地域老年看護学

キーワード：戸建て団地　孤立予防　コミュニティづくり　保健師　住民組織　協働　波及

１．研究開始当初の背景

我国では,高度経済成長期に勤労者の住宅不足への対応策としてベッドタウンの郊外拡散が進められ戸建て住宅が多数建設された．現団地は高齢者世帯が増加し団地全体の高齢化が進んでいる．また,共同体意識の希薄化や丘陵地という立地環境が高齢者の外出を困難にさせ,社会生活の狭小化や孤立化,孤立死発生の危険性を孕んでいる．厚生労働省は 2007 年に「高齢者が一人でも安心して暮らせるコミュニティづくり推進会議（「孤立死」ゼロを目指して）」を設置し,「孤立死予防型コミュニティづくり」の重要性を提言している．そのような中,我々は 2005 年からモデル団地を対象に住民・大学・行政からなるプロジェクトを結成し,協働を基軸にした CBPR（Community Based Participatory Research）による継続的実践研究を行い,健康と生活の両面から課題解決を目指す孤立予防型コミュニティづくりに取り組む住民組織形成モデルを構築してきた．

今後は,モデル団地への継続的アプローチとその効果の検証,他地域への波及モデルの構築に取り組むことが必要になっている．

２．研究の目的

住民主体の孤立予防型コミュニティづくりモデルを構築し他地域への転用の可能性を検討する．さらに 他地域への波及方法について検討し,住民主体の孤立予防型コミュニティづくりの波及モデルの構築を目指す．

３．研究の方法

1）研究デザイン

CBPR（Community Based Participatory Research）による継続的実践研究

2）研究活動

(1) 孤立予防型コミュニティづくりを実践しているモデル団地への継続的介入および評価（2）孤立予防型コミュニティづくりの波及活動（①モデル団地住民との協働によるコミュニティづくりの紹介（出前講座,介護予防ボランティアのつどい,学会および研究会,市議会議員研修,民生委員児童委員会研修会等）③効果的波及方法を検討するための実態調査（民生委員児童委員・保健委員）④効果的波及方法の探索（ネットワーク会議およびすこやかコミュニティを考える会の結成,日本看護学会地域看護特別企画交流集会,日本公衆衛生学会自由集会の開催）⑤研究会結成（コミュニティづくりに関与する大学教員）⑥研究成果の公表（学会,論文,書籍化,報告書）⑦その他

3）研究期間

2011 年から 2013 年の 3 年間

4）倫理的配慮

香川県立保健医療大学倫理委員会の承認を得,行政との共同研究の誓約書の交換および対象団地との合意を得た上で実施する．実態調査やインタビューの際にはその都度対象者に文書および口頭にて説明し同意を得る．データはセキュリティ管理を徹底し,公表の際には個人情報保護を守る．

４．研究成果

1）孤立予防型コミュニティづくりの評価

モデル団地においては,①住民組織の地域志向性の向上,②団地住民の変化（身体的健康課題は増加していたが主観的健康感やうつ等の精神的側面の有意な変化は認められなかった）③孤立死の発生を阻止できている,④住民の団地自慢が景観や環境に関するものよりも住民同士の人間関係,近所付き合い,団地内交流が増加した．

2）住民主体の孤立予防型コミュニティづくりモデルの構築

住民・大学・行政の協働を基軸にした CBPR による実践研究によって,「住民主体の孤立予防型コミュニティづくりモデル」を構築した．モデルの特徴は,住民がコミュニティづくりの基盤づくり, グループ化, 組織化，評価，活動の継続と発展を目指し，行政は行政課題の認識，活動地区の承認（人材の派遣，予算的支援），波及を目指し,両者を取り持つ保健師は,様々な活動を駆使して住民の主体性の獲得に働きかけるというプロセスであった．つまり，住民と保健師が協働で地域の実態把握を行い，グループづくりと学習活動によってグループの地域指向性を高め，規約や活動計画作成によって安定的な活動体制を整備し，調査やインタビューによって評価を行い，シンポジウムや会議等の企画によって住民が主体的になれる場をつくり，住民のネットワーク化とエンパワメントを目指すというヘルスプロモーションの理念に基づくプロセスを辿るものであった．また,小地域をコミュニティとして展開してきた点にも特徴がある．すなわち,住民の価値観が多様化する中，居住地域に対しては共有化が図りやすく，地域の文化や風土に合った方法で活動できる，高齢者ほど身近な地域をコミュニティと認識している，全住民を視野に入れた活動が可能で顔が見える関係，知り合える関係をつくりやすいなど小地域で取り組む意義は大きく，住民主体のコミュニティづくりを可能にする条件といえた．さらに，当モデルは住民同士で取り組むことから気になる高齢者をターゲットにした活動ではなく，全住民で団地の将来を見据えて住民が望む暮しの実現を目指す点も特徴である．

モデル団地では,コミュニティづくり開始後変化の兆しが表れるまでに約 5 年を要したが,この間住民と専門職（保健師）が互いの専門性を認め，その専門性を発揮しながら信頼関係を形成するとともに住民個々との公平な関係に配慮する倫理的感覚を持ち合わせることが重要であった．

2)住民主体の孤立予防型コミュニティづくりの波及モデルの構築

孤立予防型コミュニティづくりの波及を目的に「団地サミット」の開催,「ネットワーク会議」・「すこやかコミュニティを考える会」の結成,公民館等への「出前講座」,「住民組織（民

生委員・保健委員）の実態調査」,「住民主体のコミュニティづくりを考える場の設定（第 42 回日本看護学会（地域看護）学術集会交流集会開催,第 71 回・第 72 回日本公衆衛生学会総会自由集会開催,日本地域看護学会学術集会市民公開ポスター）」,活動や研究成果の公表などに取り組んだ.

これらの波及活動においても住民との協働を意図的に行った．これらの活動においては,保健師からの反響が得られ,保健師が何らかのアクションを起こした場合に活動が発展することが明らかになった．例えば A 市では,「介護予防ボランティア事業」や市議会議員の視察研修にモデル団地住民による活動の理念や活動紹介を保健師が企画することで活動を開始する地域が現れた.

したがって,孤立予防型コミュニティづくりを波及させていく上では,行政が果たす役割の重要性とコミュニティづくりの推進力・普及力のキーパーソンは行政保健師であることが示唆された．しかし，保健師の地区活動実践力の弱体化が懸念されていることから，今後は波及推進の原動力になる保健師の地区活動実践能力育成プログラムの開発の必要性が示唆された.（合田加代子.平成 23－25 年度文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書「戸建団地における孤立予防型コミュニティづくりの波及モデルの構築に関する研究」，平成 26 年 3 月参照）

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 4 件）

①辻よしみ,高嶋伸子,合田加代子,林佳子,一原由美子,平尾智弘,タブレット型携帯情報端末の保健指導活用への可能性-自治体保健師の IT 活用実態からの考察,四国公衆衛生学会誌,57（1）75－78，2012.査読有

②Kayoko Gouda, Reiko Okamoto, Current status of and factors associated with social isolation in the elderly living in a super-aging housing estate community. Environmental Health and Preventive Medicine, Vol17, 00-511,2012.査読有

③合田加代子,戸建て団地における住民とともに創るすこやかコミュニティづくり－6 年間の CBPR の実践と効果－,地域環境保健福祉研究，15（1），57,2012．査読有

④合田加代子,髙嶋伸子,地域看護学テキストにおける「個から集団・地域を捉えた保健活動」記載内容の検討,地域環境保健福祉研究,16（1）,13－18,2014.査読有

〔学会発表〕（計 9 件）

①Kayoko Gouda, Reiko Okamoto, Nobuko Takashima, Yoshimi Tsuji, and Hiroko Kunikata, Promotion of a sense of community on a detached-housing development in cooperation with residents - Factors causing changes on the housing Development –, The Second Japan-Korea Joint Conference on Community Health Nursing (JKJCCHN) 2011.7.18.

②合田加代子，高嶋伸子，辻よしみ，林佳子,保健師教育用テキストに掲載されている「個から集団・地域を捉えた保健活動」の分析,第 70 回日本公衆衛生学総会,平成 23 年 10 月 20 日，秋田県民会館

③辻よしみ,林佳子,一原由美子,合田加代子,髙嶋伸子,平尾智弘,タブレット型携帯情報端末を用いた保健指導活用への可能性，第 70 回日本公衆衛生学総会，平成 23 年 10 月 20 日,秋田県民会館

④合田加代子,岡本玲子,髙嶋伸子,辻よしみ,林佳子,戸建て団地に暮らす高齢者の団地行事参加に関連する要因－孤立予防型コミュニティづくりをめざして－，第 13 回日本地域看護学会学術集会，平成 24 年 6 月 24 日,聖路加看護大学

⑤合田加代子,岡本玲子,髙嶋伸子,辻よしみ,林佳子,高齢戸建て団地における孤立予防活動前後の社会的孤立の分類および孤立関連要因の変化，第 71 回日本公衆衛生学総会,平成 24 年 10 月 26 日,サンルート国際ホテル山口

⑥林佳子,合田加代子,髙嶋伸子,辻よしみ.住民主体のコミュニティづくりの波及を目指した取り組み，第 71 回日本公衆衛生学総会,山口市民会館,平成 24 年 10 月 24 日.サンルート国際ホテル山口

⑦髙嶋伸子,合田加代子,星旦二.「健康日本 21」地方計画策定・推進過程における住民の主体性を尊重する保健師の役割，第 71 回日本公衆衛生学総会,平成 24 年 10 月 25 日サンルート国際ホテル山口

⑧合田加代子,髙嶋伸子,辻よしみ,林佳子.住民と協働で行う孤立死予防型コミュニティづくりの評価，第72回日本公衆衛生学総会,平成 25 年 10 月 24 日，三重県総合文化センター

⑨合田加代子.戸建て団地における住民主体の孤立予防活動－住民が行う訪問活動の様相，第 2 回日本公衆衛生看護学会学術集会,平成 26 年 1 月 13 日,国際医療福祉大学小田原保健医療学部

〔講演等による波及活動〕（計 12 件）

①合田加代子,野村琴美,鷹尾美知子,高松市介護予防ボランティアのつどい－モデル団地におけるコミュニティづくりの紹介，平成 22 年 12 月 9 日,高松市特別養護老人ホーム一宮の里

②合田加代子,野村琴美,鷹尾美知子,高松市介護予防ボランティアのつどい－モデル団地におけるコミュニティづくりの紹介，平成 22 年 12 月 12 日,高松市古高松南コミュニティセンター

③髙嶋伸子,辻よしみ,久岡幸子,高松市介護予防ボランティアのつどい－モデル団地におけるコミュニティづくりの紹介，平成 22 年

12 月 13 日,高松市国分寺保健センター
④高嶋伸子,久岡芳彦,高松市介護予防ボランティアのつどいモデル団地におけるコミュニティづくりの紹介, 平成 22 年 12 月 16 日,高松市役所
⑤合田加代子,香川総合医療教育研究コンソーシアム第 3 回三大学学術交流会,高齢化戸建て団地における住民と共に創るすこやかコミュニティ,平成 23 年 12 月 10 日,香川県立保健医療大学
⑥合田加代子,第 6 回香川環境保健福祉学会「高齢者と地域を考える」シンポジスト,戸建て団地における住民とともに創るすこやかコミュニティ－6 年間の CBPR の実践と効果－,平成 23 年 12 月 17 日,香川大学地域交流センター
⑦久岡芳彦,合田加代子, 高松市議会教育民生常任委員会現地視察,戸建て団地における住民主体のコミュニティづくり,平成 24 年 11 月 13 日,高松市地域包括支援センターサブセンター古高松
⑧合田加代子,髙嶋伸子,辻よしみ,林佳子,戸建て団地モデル視察（日本赤十字広島看護大学教員）受託, 戸建て団地における住民主体の孤立予防型コミュニティづくりモデルの経緯と課題・戸建て団地視察,平成 25 年 1 月 11 日,香川県立保健医療大学,高松市原クリーンハイツ
⑨合田加代子,髙嶋伸子,林佳子, 高松市牟礼地区民生委員児童委員会研修会,住民・行政と協働で取り組んだ住民主体のコミュニティづくりモデルの構築と波及を目指す大学,平成 25 年 3 月 28 日,高松市牟礼支所
⑩久岡幸子,合田加代子,髙嶋伸子,辻よしみ,林佳子,第 16 回日本地域看護学会学術集会市民公開ポスター, 戸建て団地の住民が住民を支える取り組み,平成 25 年 8 月 3・4 日,ホテルクレメント徳島
⑪合田加代子, 岡山県看護協会平成 25 年度保健師職能研修及び交流会, 地域づくりと保健師の果たす役割－住民主体の活動を支援した 10 年の経験から－,平成 25 年 10 月 5 日,岡山県看護協会
⑫合田加代子,久岡芳彦,久岡幸子,阿品台いきいきプロジェクト健康ボランティア育成教室, 戸建て団地のコミュニティづくりー住民が住民を支えるしくみづくりを目指してー,住民で創るすこやかコミュニティのパートナーとして,平成 25 年 12 月 5 日,日本赤十字広島看護大学

〔研究会等の開催〕（計 4 件）
①合田加代子,髙嶋伸子,辻よしみ,林佳子,佐藤好美,第 42 回日本看護学会地域看護特別企画交流集会,住民とともに創るすこやかコミュニティ」－住民と行政の協働のあり方を探る－, 平成 23 年 8 月 25 日,高松市サンポートホール高松
②合田加代子,髙嶋伸子,辻よしみ,林佳子,松原文子,第 71 回日本公衆衛生学会自由集会,孤立予防－住民が住民を支えるしくみ（戸建て団地モデル）の波及方法を探る,平成 24 年 10 月 25 日,山口市中市コミュニティセンター
③合田加代子,髙嶋伸子,辻よしみ,林佳子,眞﨑直子,井上清美,第 72 回日本公衆衛生学会自由集会,第 2 回孤立予防住民が住民を支えるしくみの波及方法を探る‐行政保健師と協働する大学の役割, 平成 25 年 10 月 23 日,三重大学
④合田加代子,髙嶋伸子,林佳子,眞﨑直子,井上清美,地域づくりにおける大学の役割に関する協議会,平成 25 年 11 月 23 日,岡山国際交流センター

〔報告書〕（計 2 件）
① 合田加代子.平成 23－25 年度文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（C）課題番号：23593397）研究成果報告書「戸建団地における孤立予防型コミュニティづくりの波及モデルの構築に関する研究」, 平成 26 年 3 月
② 合田加代子.住民主体の孤立予防型コミュニティづくり－大学・行政・住民による協働の記録,2014 年 3 月.

〔図書〕（計 2 件）
①合田加代子.公衆衛生看護学テキスト 3 公衆衛生看護活動Ⅰ1 章－3（ヘルスプロモーション（地域の健康づくり）介護予防（孤立予防）),42－59 ページを執筆,医歯薬出版,2014 年 4 月 10 日発行.
②合田加代子.住民主体の孤立予防型コミュニティづくり－大学・行政・住民による協働の記録,単著 全 77 ページ,ふくろう出版,2014 年 4 月 30 日.

６．研究組織
(1)研究代表者
合田　加代子（GOUDA KAYOKO）
香川県立保健医療大学・保健医療学部・看護学科・准教授　研究者番号：2053146
(2)研究分担者
該当者なし
(3)連携研究者
髙嶋　伸子（TAKASHIMA　NOBUKO）
香川県立保健医療大学・保健医療学部・看護学科・教授　研究者番号：90342344
辻 よしみ（TUJI　YOSHIMI）
香川県立保健医療大学・保健医療学部・看護学科・講師　研究者番号：30353147
林 佳子（HAYASHI　YOSIKO）
香川県立保健医療大学・保健医療学部・看護学科・助教　研究者番号：00564618
岡本玲子（OKAMOTO　REIKO）
岡山大学大学院保健学研究科・教授
研究者番号：60269850